

令和2年度 豊かなむらづくり全国表彰事業
東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

みんなの力で地域を活性化！如活じよかつぜんじ禅師ゆかりの里 中荒井区

○団体名 なかあらいく 中荒井区 （代表 わたなべ 渡部 まさとし 雅俊）

○所在地 ふくしまけんみなみあいづぐんみなみあいづまち 福島県南会津郡南会津町

○むらづくりの背景・経緯

南会津町は福島県の南西部、栃木県境に位置する山間豪雪地帯で、中荒井区は、町の中心部より南方4kmに位置し、国道121号に沿って形成される集落で、会津と関東を結ぶ交通の要所にあり、集落内には私鉄の駅も設置されている。

集落では以前より「集落でできることは集落で」の精神があったが、少子高齢化による人口減少で空き家や独居老人の増加による集落機能の低下、鳥獣被害による遊休農地の増加、優良農地の維持管理等が課題となっていた。一方で、中荒井区には江戸時代に禅を広め、優れた医術で人々を救ったとされる「如活（じよかつ）禅師（ぜんじ）」の墳墓・仏塔があり、かつては禅師の命日近くに供養のための墓前まつり「如活祭」が行われていた。この祭りを区の役員が中心となり、平成21年に区民総参加で復活させた。

これをきっかけに集落内外の人たちの交流が広がり、地域づくりの機運が高まった。また、集落の活性化を図るため、集落の実態・課題把握を行い、手作りマップの作成など「なかあらい地域活性化（元気づくり）計画書」を作成し、集落運営に関する諸課題に対処する再生計画を示した。

○むらづくりの内容

（１）農業生産面

平成25年に多面的機能支払交付金制度を活用して、農地の維持管理・保全等を行う「なかあらい大地を育む会」を設立。ワークショップ等を通じ、鳥獣による農作物の被害状況と対策について理解を深めつつ、区民総出で電気柵の設置や管理、里山林整備等に取り組み、被害を減少させた。

また、遊休農地の増加や優良農地の荒廃を防ぐため、刈払いや耕起の代行作業に取り組み、地域の農業法人が再生した農地を有効活用し、そばを栽培している。



住民による電気柵設置作業

（２）生活・環境整備面

平成29年に東武鉄道の特急列車リバティが運行を開始したのに合わせ、停車駅（中荒井駅）周辺の遊休農地を整備、ザル菊やアジサイ等を植栽し、景観づくりを行っている。

また、組織体制を整備したうえで、集落の課題（除雪作業、災害対策等）解決に取り組み、その状況を会報で区民に情報提供するとともに、様々な伝統行事やイベント開催により世代間交流を促進し、集落の活性化を図っている。

さらに、NPO法人との農福連携や森林保全のための間伐体験を行うとともに、福島大学の学生と連携して集落をPRするなど、様々な組織の協力を得ながらむらづくりに取り組んでいる。



中荒井駅沿線のザル菊